

# 童

2016年5月31日。

怒涛のような5月が終了します。なぜ、怒涛だったのかと考えますと。季節が、10日から2週間ほど早かったせいでしょうか。4月中旬ごろ、「今年の北アルプスは、2週間ほど春が早い、もう例年のゴールデンウィークの状況だ」と白馬の関係者がつぶやいていました。

4月出合いの会には桜が咲き、子供たちと山を歩くと、ノビル、コゴミは例年の気分で取りに行くと、もう大きくなりすぎていました。そして、タラの芽も油断したように、いつの間にか大きくなっていたり、いつもの場所の物が既に収穫されていたり。極め付けは、リンゴの花。例年、ゴールデンウィーク終盤が、リンゴの開花最盛期なのに、連休前に開花してしまいました。その結果、リンゴ栽培の中で一番忍耐を試される摘果作業が、開始される状況。お陰で、連休のほとんどは、この作業で終わりました。

最近では、タケノコ取り。こちらも油断していたら、いつの間にか大きくなっていました。今年は油断禁物。

作物の成長状況はこれですが、子供たちはじっくりな毎日です。4月の薪運びから一転して、農作業や花の種まき、泥遊び、五右衛門風呂、給食など、日々熟成、発酵状況。促成栽培、早熟、季節の先取り、早産、効率の良さなどは、やはりあまりいい結果は出ませんね（反省）



季節の早熟に抵抗、修正できるように、子供たちには、のんびりパワーで対抗してもらいたいと願います。そんな中、さらに対抗馬出現。気が付けば、オフグリッド生活を続ける雄飛君達やそこに集まってくる人たちの世界観。近未来の100年先の生活と予感させる超早熟な生活でありながら、最もスローペース、非効率を楽しむ暮らし。これらを楽しむ生活は、子供たちにとっても、一番魅力的で、ふさわしい暮らしであるような気がします。季節の早熟さに翻弄されることなくいきましょう。

## 【同じ軌跡】

久しぶりに、青山家子供4人の近況報告。誰もが、親の予想や尺度を超える暮らしをしてしまうので、一人ひとり書きあげればきりがありません。

雄飛は、見ての通り、インド、そしてその後のビバッサナー瞑想後、風貌もロン毛となり、サーフィンとスキーには行かないで、彼女付き合い宣言をして、2人で新居へ引っ越して、毎日畑生活をいきいきとしています。友達が来れば、必ず、この新居へ案内して、ここで寝泊まり。どの友人たちも大満足して帰っています。機会があれば、ぜひこの新居へどうぞ行ってみてください。特に、子供たちは大喜び間違いなしです。

野乃花は、4月の大地手伝いを経て、熊本へ食事ボランティアに出かけ、昨日無事帰ってきました。そして、6月末からは、雄飛が劇的に気づきがあったビバッサナー瞑想に出かけ、その後、北アルプス裏銀座の山小屋に入る予定です。

ちなみに、雄飛君と畑と一緒に暮らしているハッチも、今週からビバッサナー瞑想へ出かけます。野乃花の山小屋も、裏銀座に3つある太郎平グループの一つ。4年前位に野乃花はこの一つで働き、去年はハッチが別の一つで働き、今年はまだ野乃花は働きます。雄飛は、隣の黒部五郎で働いていたので、この裏銀座界隈は、大地グループの匂いがプンプン、ぜひお出かけ下さい。ビバッサナー瞑想後の野乃花が楽しみです。

さて、しばらく鳴りを潜めている、来れば子供たち、特に女の子に絶大な人気を誇る、次男の雄河。23歳にて、新一年生として学生生活スタート。同級生達は、弟の雄和と同じ年齢です。青ちゃんは、24歳にて入学。ほとんど同じ経歴スタート。保育士幼稚園教諭の専門学校へ毎日バイクで、青ちゃんの実家に住んで通っています。青ちゃんの実家の物置の2階には、雄飛君のオフグリッドの住まいがあり、その入口の倉庫のような部屋に、雄河が暮らし、青ちゃんの両親たちと暮らしています。近くに住みながら、ほとんど顔を合わせる事がないので、月に一回食事会と称して、いろいろ話を聞いています。独立心があるので、親はあまり入り込まないようにしています。

この子は、兄弟の中でも、プロジェクトマネジメント能力は最高で、気配りや配慮、段取りや手配能力は抜群で、中学でも高校でもテニスのキャプテンとして能力を発揮してきました。勉強学習は嫌いで、高校も大学も推薦で入りましたが、大学はまだ未熟だったため1年で退学し、その後、山小屋やスキーパトロールで、本来の能力を発揮し、人間的に成長し、今年から自分の選んだ学校へ。勉強嫌いだっただけに、専門学校3年間のハードな座学（つまらない心理学や原論、理論）は大丈夫？ そして一番の難関 ピアノは！？ と心配していましたが・・・

毎日朝早く出かけ、帰ってくるのが遅い毎日。何をしているのかと思いきや、ピアノの練習をしているということ。一度も弾いたことのないピアノ。例に漏れず、ピアノの先生は結構プライドがあり、厳しい。若い18歳の女の子達は、大体こんな先生たちとの相性は悪い中、雄河は、小さい頃から人当たりが良く、年上の先生たちとも友達になれる術があるだけに、今回も大人対応してうまくいっているらしい。聞けば、バイエル6番まで行っているとのこと。1か月でここまで！！ まさに脅威の努力。ソルフェージュ・コーリユーブンゲンという声楽も人一倍大きな声を出しているらしい。勉強も、自分の目指す道だけに、はつらつと学んでいること。聞けば、自分と全く同じ軌跡。青ちゃんも、24歳で専門学校へ入り、一人だけ早朝、居残りして、毎日ピアノ練習に励み、歌も照れずに大きな発声をし、勉強も若い子たちに負けずにしてきた自負があるだけに、全く同じことをしている雄河には驚きました。

数か月前の童で「ギャップイヤー」について書きましたが、やはり、我が家にとっては、これが大事です。本当にやりたいことを見つけて、そのために学ぶこと。偏差値や知名度、「金 将来性 世間体」で将来を決める選択よりも、ギャップイヤーを経験し、自分を見つめ、社会を見つめ、人と暮らし交わり、ライフワークを見つけていく期間、22歳で働き60歳まで働くよりも、30歳過ぎて働き始め、70歳過ぎまで精神的にはつらつと働く人生、20代は、様々な世界観をみて挑戦体験していく人生があってもいいと思います（自分の体験から）

その意味で、雄河の2年間のギャップイヤーは、大きく彼の大人への成長を促してくれたようです。先日久しぶりにゆっくりと3人で食事をしましたが、彼の大人対応の人生感に驚きました。

最後に、ギャップイヤーを経験することなしに、東京へシェアハウスに住みながら進学した末っ子の状況は？ 1か月に一度は手作りのものを贈ってあげようと、電話してほしいものは？ と聞いた1回目の答えは 「レタス」 「そんな物は、買えよ、仕送りしているのだから、今レタスなんて取れないよ」と家族で笑いました。その後も「野菜送ってくれ」という連絡。そして、変わった点は、メール連絡において必ず「ありがとう」という感謝の言葉が付いていること。高校野球の送り迎えなどのメールにもなかった言葉。賄付きのアルバイトも勉強に差し支えない程度に始めたとのこと。1か月仕送り4万円、1か月经った頃記帳したら、引き出し19000円也。どんな節約生活しているのだろう。それともバイトに懸命か。ギャップイヤー未経験だけに、果たしてこのままスムーズにいくのか・・・